

# 理研会報

発行 理科研究部  
印刷 事務局  
成田市成田950  
成田小学校内

今年はこの様なことを(その2)

## 教科書の活用を

二州小 土屋重信

私は、へき地(分校)に勤務するひとりです。新指導要領の目標に示されてあるような「自然に親しみ、自然の事物、現象を観察し、観察などによって」とあるような地味環境で教えています。

そのような中で、毎月送られてくる「初等理科教育」理科の研究、理研会報等が、毎日のエネルギー源として効果を示しています。

けれども、読むことのできるが原稿を依頼されて書くことになるとなかなかペンが走りません。

私は教科書中心による授業を毎日進めています。教科書中心でもよいだろうと私なりに思っています。教科書をよく読んで、分析検討し、毎時間毎時間実践できればよいのですが、授業のはじまる合図があつてから、児童に「さようは○○をやるから○○を準備しておきなさい」という調子で授業が開始されます。

児童の方も、前時の問題から、さよらの問題を設定し、深がめていこうという学習の心構えができて、教師の方にも責任が及び反省してあります。

## 板橋研究部長のたより

前略

梅雨の日本を後にいたしまして、只今ミュンヘンで勉強しております。ドイツの学制や指導法については、部員の皆さんも各方面の報告でご承知のことと思いますが、理科の教育については、その内容方法とも、われわれの実際と大差はないと思われ、ただし、施設その他の教育条件については学ぶべき点が多々あります。

ここはビールのおいしいところ、しかし川生にはあまり味があわず、梅雨の月桂冠をホテルでもっぱら愛用しております。暑さにむかう折柄各位のご健康を祈ります。

任 ミュンヘン 板橋義夫

にはすでに、園芸品種があつた江戸時代には二百種もの品種解説が、現在、日本には約三百五十種、全世界では約三千五百種といわれているが、何しろ、カメラや、ジャポニカ(これは日本原産)といふくらいのもので、日本以外ではアジア数ヶ所をのぞいて、アメリカ大陸にもアフリカ大陸にも、ヨーロッパ、オセアニア地方にも、橋の自生地は発見されていない。

それなのに三千五百種とは日本にある品種の十倍にあたるわけだ、なぜだろう。

豊臣秀吉が橋を愛したことは知られているが、その後、江戸時代までに、すこしづつブームを呼んだので、しほには大名たちが何十画もの大金を出して手に入れるようにまでなつた。一説によれば、徳川の政策で一時期禁令が出された

ことづくめである。

このように橋といふのは、すばらしい日本の代表花木で、牧野富太郎博士も「山で最も美しく、私の一審すべき花木だ」と常々いつていたという。

橋の良さは歴史的なことにあつたので、このように都展の朝日はやくなつたため、部会展も九月早

花も美しいが、その名のおこりも「つやばき」といふくらいで、一貫中書々とひかる葉をつけ、花期も長く、十二月はじめから四月まで、花の少ない冬でもいくつがの品種が必ず咲いているし、病虫害もごく少ない。このへんの火山灰地を好んで自生するが、あまり土を遣はず、どんな用土でも良く育つし、鉢植でも良く咲く。又、切花として水揚げよく、茶花では「佗介、有楽、太郎庵」などの品種は最高級である。又、中国でも長寿の木、ヨーロッパでも幸福の木といわれるくらい長命であり、天だ、「首が落ちる」などとはとんでもない。

数えると、橋のよい点はきりがないうが、日本の国花を桜にしないうで私なつたら橋にしたかつたらいいのである。

橋は接木や挿木でどんどんやせることも良い点のひとつである。その方法も述べたいが、またの機会にしたい。

昨日まで十月末から十一月はじめにかけて開催していた、郡理科作品展は、本日から県展の開催日、論文展といつしよに早く開かれるため、例年より一月以上もはやく開催しなければならなくなつた。このように都展の朝日はやくなつたため、部会展も九月早

々開かなければならず、夏季休業中に相当指導することも必要になつてくるものと思われる。朝日が早くなつても作品の質の落ちることのないよう充分指導して下さい。なお県展は「千葉さくし」で開かれる予定です。

郡展搬入審査 9月28日成田小  
郡展搬出 9月30日

9月30日は郡教研全体集會が開かれる予定なので多くの先生方の見学をお願いいたします。

○研究部長の板橋義夫が教育事情の視察に外遊されてまもなく一月になり、七月二十三日夜八時羽田着でおかえりの予定です。

○次号からは研究部長の、西ドイツ・スイスの理科教育(仮題)などについての連載をはじめたいと思つています。

○本号から県展まで、論文も理科工作、標本ともにつなぐことができますので、各学校とも論文、研究記録などにも一層力を入れてほしいと思つています。

○まもなく夏休み、夏期研修に県外におでかけの方も多しと思つています。見聞録、旅行記など理研会報におよせ下さい。

○二部会の理科同好会で「アラガハンゴンソウ」と「ワルナスビ」の生えている場所を各学校毎に教えてもらつていきます。協力して下さい。

## 椿 談 聖教

白井二川 近藤静観

「椿気遣い」といわれた十耳、庭に百二十種を築められた。お評しがでたので少し聞いていた。さういふ、あしびきの、やっおの橋のらつらに、見とも能かめや箱えのける君、大伴家持(万葉集)といふのがあつた。椿は古来より我が国に愛されてきた日本原産の花木ではある。

しかし八幡は単なるやぶ椿へ山橋であつたのが、園芸的品種であつたのは解らないが室町時代

あつたのは解らないが室町時代

## 郡理科展開催

9月28日に

昨日まで十月末から十一月はじめにかけて開催していた、郡理科作品展は、本日から県展の開催日、論文展といつしよに早く開かれるため、例年より一月以上もはやく開催しなければならなくなつた。このように都展の朝日はやくなつたため、部会展も九月早

々開かなければならず、夏季休業中に相当指導することも必要になつてくるものと思われる。朝日が早くなつても作品の質の落ちることのないよう充分指導して下さい。なお県展は「千葉さくし」で開かれる予定です。

郡展搬入審査 9月28日成田小  
郡展搬出 9月30日